

会津地鶏の卵用利用

福島県農業総合センター 畜産研究所養鶏分場

1 部門名

畜産 - 鶏 - その他

2 担当者

齋藤美緒

3 要旨

本来、肉用鶏である会津地鶏を卵用に利用する飼養者が増加している。そこで、採卵鶏用の飼料を給与し、照光時間が15時間となるよう点灯管理した会津地鶏の産卵性能を明らかにした。さらに、育成期の体重調整が、その後の産卵性を向上させることを確認した。

- (1) 自由採食下での産卵成績は、初産日齢が132日、64週齢までの積算産卵個数が180個(内、正常卵166個)、25～64週齢の産卵率58.3%、要求率4.1であった(図2、図3)。
- (2) 30週齢時体重を自由採食下の約70%の2.3kgとなるように、8～30週齢まで制限給餌をおこなうと、初産日齢は200日と遅れたが、積算産卵個数は198個(内、正常卵188個)、産卵率71%、要求率は2.9と産卵成績は向上した(図1、図2、図3)。
- (3) 制限給餌によって、育成期(0-24週齢)の飼料摂取量が19.9kgから10.1kgに減少した。
- (4) 制限給餌期間については、さらなる検討を要する。

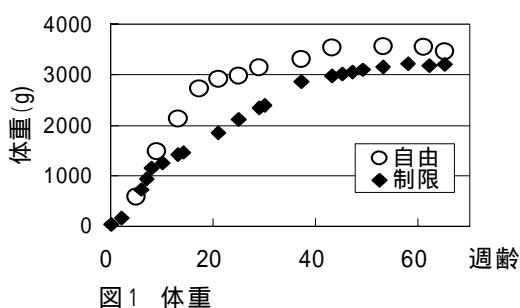


図1 体重

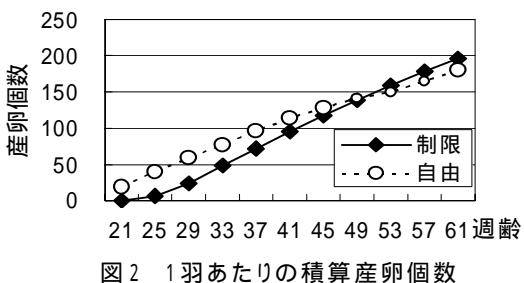


図2 1羽あたりの積算産卵個数

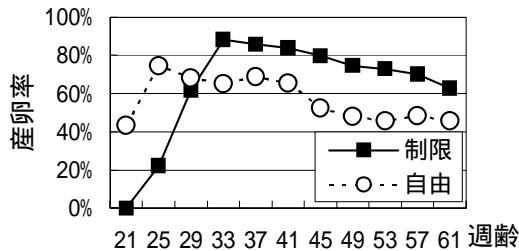


図3 産卵率

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19、20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007、2008)